

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する
医療および移行期医療支援に関する研究

研究分担者 和佐野浩一郎 東海大学 医学部 准教授

研究要旨

先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の患者が年齢を重ねることにより小児期から成人期へと成長するなかで、医療機関における対応、移行期医療を整備することにより、患者本人および家族の支援を充実させる。

A. 研究目的

視覚聴覚二重障害の患者はコミュニケーションに大きな障害を抱えているため、自身をとりまく環境の急激な変化に対応することが大変難しい。小児期から成人期へと移行する際に、患者自身の変化とともに周囲を取り巻く医療環境も変化していく必要があり、その支援を充実することは患者本人および家族にとって非常に重要である。

COVID-19パンデミック下において、各医療機関における個別対応が困難な状況であり、移行期医療支援体制の確立および診療マニュアル・ガイドラインの整備を行うことで、視覚聴覚二重障害の患者に対する医療を充実させることを目的とする。

B. 研究方法

視覚聴覚二重障害患者の情報を収集しデータベースを構築することにより臨床情報および問題点を把握する。

移行期に関し、実際に診療を行っている医療機関からの情報を収集し整理することで診療モデルおよびプログラムの作成を行う。

また、診療マニュアルの改訂および普及を行う。

(倫理面への配慮)

患者の個人情報に十分に留意して遂行する。

C. 研究結果

大学病院における臨床データ・試料の収集ならびに移行期医療支援の充実を行った。さらに

診療マニュアルの改訂を行うとともに、耳鼻咽喉科医師および眼科医師に向けて普及活動を行った。

D. 考察

視覚聴覚二重障害患者およびその家族に対して必要な移行期医療に関し、研究代表者である松永達雄を中心として、順調に研究が進行した。マニュアルの改訂により二重障害患者に対する支援の充実を得ることができた。

E. 結論

視覚聴覚二重障害患者に関する移行期医療の整備に向けて取り組みを行った。

F. 研究発表

1. 論文発表

Wasano K, Nakagawa T, Ogawa K. Prevalence of Hearing Impairment by Age: 2nd to 10th Decades of Life. *Biomedicines*. 2022;10(6):1431. Published 2022 Jun 17. doi:10.3390/biomedicines10061431

2. 学会発表

該当なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし